



会津医療センターから こんにちは！



— ■ —
【35】 糖尿病・内分泌代謝・腎臓内科
教授 橋本 重厚

『オンライン診療の役割』

新 型コロナウイルス感染症まん延に伴い感染を回避する手段の一つとして、電話診療やオンライン診療が話題を集めています。スマートフォンやタブレット端末の普及により、遠隔にいる人と顔を見ながら話せるようになったことが、大きな要因です。

会津地方は高齢化先進地域です。年々、医療・介護需要が増加しています。一方、会津地区の人口10万人当たりの医師数は全国平均の約2/3と極めて少ないです。また会津地方は広大で、公共交通機関に乏しく、医療機関を受診するにも遠距離で時間もかかり、高齢者は感染のリスクが上昇します。このような空間的、時間的、医療リソース上の制約を解決するには、双方向性情報電子通信システム（ICT、IoT）の活用が必須で、離島などではタブレット端末を用いた遠隔外来診療が既に行われています。

しかし、真にオンライン診療が必要とされる高齢患者は、これら電子通信機器を保有しないか、使えないのが現状です。この度、会津地域で開始され報道されたオンライン診療システムは、高齢者が使いにくいという難点を大幅に改善し、患者さんは自宅で予約時間にタブレット端末の前に座っていれば医師側から通信が行われ、画像で担当医の顔を見ながら直接会話し受診ができるもので、当院でも既に導入を計画しています。通院は3か月に一度、その他の月はオンライン診療に切り替えると病院でも薬局でも待ち時間が大幅に削減され、3密による感染の危険も回避できます。通信システムを内蔵した血糖測定装置や生体装着センサーを併用すると、さらに詳細な診療が可能になります。

全ての疾患が対象ではないこと、通信機器や通信費の費用負担が増えること、自治体の補助に限りがあるなど解決すべき問題は山積していますが、患者さんの利便性と安全を大幅に向上するシステムで、会津における地域医療の在り方を大きく変える可能性を内蔵しており、今後が期待されます。